

けいはんなビュー

[広報誌]

# View

けいはんなから新しい産業を

## vol.28

P1~  
特集1

「第10回けいはんなビジネスメッセ」

P10~  
Who's Who?

「奈良先端科学技術大学院大学 名誉教授  
大阪電気通信大学 名誉教授  
千原 國宏氏」

千原 國宏氏

【寄稿】

「けいはんな学研都市新たな都市創造委員会」  
の発足にあたって

公益財団法人地球環境戦略研究機関  
関西研究センター所長

鈴木 胖 氏

【けいはんなを知る】 P8~9

けいはんな学研都市の歩み(2/3)

【注目! 企業インタビュー】 P18~19

光興業株式会社

【けいはんな 温故知新】 P20~21

交野市

P4~  
特集2

「けいはんな  
情報通信フェア2015」



(公財)関西文化学術研究都市推進機構  
関西文化学術研究都市建設推進協議会

# 「けいはんな学研都市 新たな都市創造委員会」 の発足にあたって

公益財団法人  
地球環境戦略研究機関  
関西研究センター所長  
鈴木<sup>ゆたか</sup> 胖 氏



けいはんな学研都市(関西文化学術研究都市)は、1978年に奥田懇(座長:奥田東元京大総長)による“人類の未来をひらくことを通じて、国際社会に貢献する”という新たなサイエンスシティの構想に始まる。1986年に推進の核となる(財)関西文化学術研究都市推進機構が設立され、翌年には関西文化学術研究都市建設促進法が公布・施行され、国家プロジェクトとして本格的に都市建設がスタートした。

最初の10年間には、大手の研究機関・大学の立地が十指をこえてつぎつぎと進み、学術研究都市としての骨格が形成された。1996年には次の10年の展開を考える産学官の関係者で構成される「セカンド・ステージ・プラン事業推進会議」が発足し、議論の結果の一つとして立地規制が緩和され、ステージの後半には研究開発型産業の立地が始まった。広域幹線道路や鉄道など都市基盤の整備が進み、産業施設の顕著な立地増加が現在も続いている。2006年にはサード・ステージ・プランが策定され、建設推進に加えて多様な自治体に分散したクラスターを一体化する高度な都市運営の構築が新たな目標となった。

私は1970年代の初頭から、ローマクラブの活動や地球環境問題関連の研究に取り組んできた経緯もあり、けいはんな学研都市の建設推進には当初から深く関わってきた。今年度(2015)はサード・ステージの最終年である。このたびの「けいはんな学研都市新たな都市創造委員会」の設置は、けいはんな30年の成果をふまえ、その未来を考える重要なマイルストーンになると確信している。けいはんなの新たなステージにおけるビジョン、その実現などについて、広範な関係者の意見が結集されることを期待したい。

# 第10回 けいはんな ビジネスメッセ

平成27年度  
競輪補助事業



今年で第10回という節目を迎えた「けいはんなビジネスメッセ」を10月2日(金)、けいはんなプラザにおいて開催しました。例年7月の暑い時期に開催しておりましたが、今回は秋晴れのすがすがしい気候の中、約1,500人の来場者を迎え、また、NHKや多くの新聞社が取材に訪れ、夕方のニュースや翌日の新聞で紹介されるなど、成功裏に終わることができました。

「イノベーションと次世代産業の創造」というテーマを掲げ、イノベーションによるけいはんな発の新しい産業の創出を目指すべく、ビジネスマッチングや産学公連携を推進する一翼を担いました。また事業費用におきましては昨年に引き続き(公財)JKAの補助を受けることで、114ブースという多くの企業様・機関様に出演していただくことができました。

## ▶▶ ビジネスマッチング展示

メインイベントであるビジネスマッチング展示のイベントホール展示会場では、導電性高機能繊維を素材とした複写機・プリンタ用途OAブラシで世界シェアNo.1の東英産業(株)や、導電性繊維加工から医療・健康・IoT分野まで取り組むミツフジ(株)をはじめとするものづくり・ICT分野と、エコロジカルでかつ効率の良い分離のための膜分離技術の開発と提供を実現したイーセップ(株)をはじめとする環境・エネルギー分野の出展者が77ブース、ホワイエの展示場では、空気清浄技術(殺菌・脱臭・集塵)を基盤技術とし、アレルギー除去、ウイルス不活化、脱臭技術の高度化お

よびオンリーワン製品の研究開発・製造販売を一貫して推進する(株)H&C技術研究所をはじめとするアグリ・バイオ・ヘルスケア分野と産学公連携分野の出展者が27ブースの展示を行い、試供品の配布や測定体験、映像・音響のデモなど、それぞれ工夫を凝らしてPRしていました。

加えて、アトリウムロビーでは、(公財)関西文化学術研究都市推進機構の取組みなどの紹介をさせていただき、けいはんな学研都市でどのようなことが行われているかを知っていただく機会も提供させていただきました。



パナソニック映像(株)のSpacePlayerによる映像

▶▶ イノベーションフォーラム

「けいはんなイノベーションフォーラム」では、近畿経済産業局 総務企画部長の青木朋人様から、日本の経済動向と成長戦略、近畿経済の動向と近畿経済産業局の取組についてご発表いただきました。また基調講演では、今年で10回目を迎えることもあり、従来の研究紹介中心の講演から趣向を変えて、様々なメディア等でご活躍されているコムズ投信(株)会長の洪澤健様にご講演いただきました。

日本の歴史的文化的背景や欧米との比較、さらにこれからの社会の変化を読み解き、今後の日本を担う発想について、洪澤栄一の著書「論語と算盤」に込められた意味を、わかりやすい言葉で語っていただき、参加者の多くの方からご好評をいただきました。これからの日本を見据えるために、国内経済の歴史の振り返りからお話は始まりました。日本の歴史を見ていくと約30年周期で破壊と繁栄のリズムがあり、1960-1990は、高度成長、ジャパnasナンバーワンと言われた時代、そして現在の1990-2020は、バブル崩壊から続く停滞期の30年にあたる。2020年からの30年は、人口分布から見ると成功体験のない世代と言われる団塊ジュニアの時代で、21世紀の新しい繁栄モデルを築く新しい価値世代としての彼らの活躍に期待をこめられていました。



新しい価値を考える例えとして、8,000円のデザイナーナイレットブラシを例にあげ、ブラシ本来の機能の価値を300円とすれば、残りの7,700円は意味の価値となる。先進国の豊かさは、機能的であることは当たり前で、これからは「意味」が価値を持つ時代を考えなければならない。時代の流れとともに「常識」は変化するが、常識には智・情・意のバランスが大切であることを映画「オズの魔法使い」を例にとり、「智」: Wisdomがなくては物事を理解できず、「情」: Emotionがなくては想いも生まれず、「意」: Willがなければ行動ができない。このバランスのとれた「常識」を持って他者を理解することが、これからの未来には必要になると説明されました。

そして、枠の内側にとどまると居心地が良いが、枠の外に視線を向けて社会の責任を負わなくては国は豊かにならない。内の視点、外の視点を持ち、自分の枠を大きくするために外の視点を持ち多様な価値観を取り入れることが大切になる。「枠を超える」ことがこの時代に重要であることをお話されました。

このように、今日の国内産業の行き詰まりから日本が元気を取り戻すヒントをいただく貴重な講演となり、参加者からも「非常に触発される内容」「日常で接することの少ないテーマであり興味深かった」「イノベーションの秘訣のヒントが得られた」など、たくさんのお声をいただきました。



## ▶▶ e<sup>2</sup>未来スクエア見学会

けいはんなプラザラボ棟11階にあるe<sup>2</sup>未来スクエアでは、午後から3回の見学会を開催し、平成22年度～26年度の5年間にわたって行われた「けいはんな次世代エネルギー実証実験」の内容を中心として、現在のけいはんな学研都市で行われているエネルギー対策などを紹介しました。来場者との熱の入った質疑応答も交わされました。



## ▶▶ 企業プレゼンテーション

恒例になりました出展企業様によるプレゼンテーションでは、けいはんなプラザラボ棟入居企業からの2社を含む、6社の企業様に自社の技術や製品などのPRを行っていただき、どのプレゼンテーションもほぼ満席の状況でした。

イーセップ(株)	ナノセラミック分離膜による化学プロセスの省エネ化
(株)DFC	機械の力で化学に貢献 ～フローケミストリーから 特注装置まで～
テンフィールズ・ファクトリー(株)	売電収入を上げる太陽光架台
(株)丹宇	木質建築物の風合いを壊さない 高耐久な保護材『タウンガード』の 研究・開発及び販売
ハイトカルチャ(株)	空室・空店舗利用型の植物工場と 家庭用野菜栽培キットについて
あっと(株)	世界初!非侵襲毛細血管画像 数値化システム (大阪大学と共同研究)



出展者によるプレゼンテーションの様子

## ▶▶ サントリーワールド リサーチセンター見学会

また今回は5月に竣工したサントリーワールドリサーチセンターの見学ツアーも実施しました。見学コース「Lab Walk」とサントリー研究員と共にイノベーションと次世代技術の創造について模索する「価値創造ディスカッションコース」の2コースを開催しましたが、いずれも短期間の間に定員に達するという大変な人気でした。けいはんな学研都市に完成した世界規模の新しい研究施設に対して、研究者やビジネスパーソンだけでなく、近隣住民の方の関心も非常に高いことがうかがえました。



今回のビジネスメッセでは有効商談件数が229件(出展者アンケート集計結果による)ありました。今後もコーディネータによるフォローによって、成立に至る商談を多数出せるようにしていきたいと考えております。

未来はちょっとおもしろい。

# 「けいはんな情報通信フェア2015」開催

『けいはんな情報通信フェア』は、都市内に立地する情報通信関連機関や大学・企業等が協力し、地域に根ざした共同イベントとして毎年開催している、けいはんな学研都市最大のイベントです。第7回目となる今年は、10月29日(木)～31日(土)の日程で開催されました。けいはんなプラザ会場では、国立情報学研究所教授・社会共有知研究センター長の新井紀子氏による基調講演をはじめ、最先端の情報通信関連技術に関する様々な講演や展示が行われました。また、ATR会場においては、『ATRオープンハウス2015』(10月29日～30日)が同時開催イベントとして開催され、両会場を合わせて、延べ約3,100名もの方々に来場いただきました。さらに、31日(土)には、けいはんな地域の中高生らが自慢の研究発表を披露する『まほろば・けいはんなSSHサイエンスフェスティバル』が実施され、大変盛況でした。

## ▶▶ 式典・交流会

フェア初日の29日(木)には、けいはんなプラザ3F「ナイル」にて式典が盛大に行われました。国立研究開発法人情報通信研究機構理事長の坂内正夫氏の主催者挨拶に引き続き、近畿総合通信局局長の上原仁氏、精華町



主催者挨拶:坂内理事長



祝辞:上原局長



祝辞:木村町長

町長の木村要氏にご祝辞をいただきました。その後、基調講演(別掲)に続き、けいはんなプラザ会場とATR会場の主な展示の概要が紹介されました。

夕刻の交流会では関係者が一堂に会し、和やかな雰囲気の中にも活発な意見交換が行われました。

## ▶▶ 基調講演

### 「なんで私が『東大』に?

### —大学入試をベンチマークとして取り組む人工知能研究の意義—

国立情報学研究所を中心とする「ロボットは東大に入れるか<sup>\*1</sup>」のプロジェクトディレクターを務める新井氏は、5年前の著書「コンピュータが仕事を奪う」で、2030年頃にはコンピューターの爆発的な処理能力の向上により、ホワイトカラーの仕事の半分がなくなる、つまり機械に人間の職を奪われるということ、危機感をもって予測したということでした。しかし当時の世の中の反応としてはまだまだSF的に捉えられていたようです。

今回、「人工知能『東ロボくん』は、今から10年後の2025年に東大入試を受けて入れると思うか?」という新井氏の質問に対して会場の反応は半々くらいでした。半数の聴衆が、ロボットが東大入試を突破すると手をあげたということは、ある意味、機械に仕事を奪われる未来が現実味のあるものになっているのかもしれませんが。実際、この数年で私達の生活におけるコンピューターやインターネットへの依存がより日常化していることにより、人々の意識は変化してきているのでしょう。

新井氏はビッグデータと機械学習の話から始めまし



国立情報学研究所教授・社会共有知研究センター長 新井紀子氏

た。ビッグデータが集まれば統計を用いて分類ができ、機械学習が可能になります。「統計的処理の結果は正しさを保証するものではないけれど、結構正しいです。」と新井氏。昨年度の代々木ゼミナール模試で東ロボくんの偏差値はおよそ50といまひとつではありましたが、現在では東ロボくんの頭脳は全国の私立大学の8割に合格するレベルまで到達しているとのこと。

機械処理に向いている業務から人間の仕事の代替が始まることが考えられます。機械は統計や確率モデルは得意なので例えば金融関係での与信審査などはその範疇に入るとのこと。しかし、個別具体的な問題はやはり人の判断に頼らざるを得ないようです。新井氏によれば、科学の言葉は数学の言葉以外にないらしく、論理と確率でできており、専門性が高いほど東ロボくんには有利。一方で、はっきりとした定義のない、いわゆる常識問題は難しいとのこと。

東ロボプロジェクトを通して、こうした得手不得手を明らかにすることで人間と機械がどう仕事を分担するか、協業はどういう場面で起こすのがベストバランスかを考えて、日本の企業・社会がよりよい方向に進むような研究をしていきたいと述べています。最後に、「統計的処理の結果が高確率で正しいので、人間は機械を使わざるを得なくなり、依存度が高まることで、より大きなリスクにさらされることになる。特にビッグデータによる機械学習の結果の活用においては、人間が本来持っている情動や感覚が摩耗しないようにしないといけない。」と注意喚起して講演を締め括りました。

※1 国立情報学研究所(大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構)が中心となって、人工知能の各要素技術の精度を高め、情報技術分野の未来価値創成を目指すプロジェクト。2016年度までに大学入試センター試験で高得点をマークすること、また2021年度に東京大学入試を突破することを目標に研究活動が進められている。

## ▶▶▶ 講演

フェア開催中、様々なテーマに関する興味深い講演が行われました。ATR会場においては、ATR平田社長による「ATRの研究開発活動と事業展開～創立30周年を迎えて～」と題した講演を皮切りに、翌日には、「新たな価値創造を目指したATRの取り組み」という共通テーマに基く最先端の科学に関する5つの講演が実施されました。一方、けいはんなプラザ会場では、最先端の情報通信関連技術を中心とする4テーマの講演が行われました。



中村 淳一 氏



鳥澤 健太郎 氏



上田 修功 氏



依田 紀久 氏

### ● ATR会場

#### ▶10月29日(木)

ATRの研究開発活動と事業展開 ～創立30周年を迎えて～	株式会社国際電気通信基礎技術研究所 代表取締役社長	平田 康夫 氏
---------------------------------	------------------------------	---------

#### ▶10月30日(金)

『けいはんなATRファンド』による 研究シーズの事業化	経営統括部・事業開発室 常務取締役	鈴木 博之 氏
ニューロフィードバックの展開と応用	脳情報通信総合研究所 所長・ATRフェロー 認知機構研究所 数理知能研究室 研究員	川人 光男 氏 酒井 雄希 氏
外骨格ロボットの開発とリハビリテーションに 向けた応用	脳情報研究所 ブレインロボットインタフェース研究室 室長	森本 淳 氏
自動車運転行動の理解と誘導	知能ロボティクス研究所 環境知能研究室 室長	内海 章 氏
人の存在を伝えるミニマルデザイン の効果と応用～ハグビーを通じた外部との連携～	石黒浩特別研究所 存在感メディア研究グループ グループリーダー	住岡 英信 氏

### ● けいはんなプラザ会場

#### ▶10月30日(金)

サントリーの特定保健用食品(トクホ)の 開発について -伊右衛門 特茶の開発を中心に-	サントリービジネスエキスパート(株) R&Dサポート本部 HEセンター 課長	中村 淳一 氏
テキストビッグデータから知恵を探す -大規模情報分析システムWISDOM XとDISAANA-	国立研究開発法人情報通信研究機構 ユニバーサルコミュニケーション研究所 情報分析研究室 室長	鳥澤 健太郎 氏
IoT/ビッグデータ分析のための 時空間予測技術とその応用	日本電信電話(株) NTTコミュニケーション科学基礎研究所 上席特別研究員	上田 修功 氏
イノベーションの創造に、公共の空間の力を -国立国会図書館関西館の来館サービスのこれから-	国立国会図書館関西館 文献提供課 主査	依田 紀久 氏

## ▶▶ 特別講演

31日(土)にはNICT内藤研究マネージャーを講師に迎え、ブラジルサッカー代表・ネイマール選手がどのように足の動きをコントロールしているかの事例を通して、脳が身体を動かしたり運動を習得したりする仕組みについて解説する特別講演が行われました。

**ネイマールに学ぶ身体を動かす脳の仕組み**  
—脳神経系を鍛えて、世界で勝てる日本人を育成する—

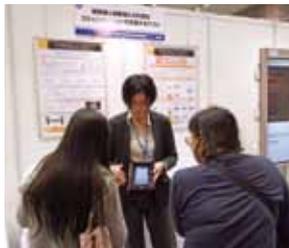
情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター  
研究マネージャー **内藤 栄一 氏**



内藤 栄一 氏

## ▶▶ 展 示

けいはんなプラザ会場では、様々な先端技術と応用・展開などの展示デモが38ブースにわたって行われました。東京オリンピック・パラリンピックに向け、訪日外国人観光客のおもてなし支援を目指した多言語音声翻訳技術による様々なアプリの展示デモ、日常生活のささいな疑問から世界規模の課題まで解決する「大規模Web情報分析システムWISDOM X(ウィズダムエックス)」や、誰でもスマホを使ってTwitterから今起きている災害がわかる「対災害SNS情報分析システム DISAANA(ディサーナ)」をはじめとした最先端の研究内容が出そろいました。また、ATR会場においては、脳情報科学、ライフ・サポートロボット、無線通信、生命科学、その他(環境・食農)の5分野に加え、ATRグループ会社、関連会社・ベンチャー企業・ユーザー会社の展示が行われ、いずれも多くの来場者で賑わいを見せていました。



## ▶▶ 「まほろば・けいはんな SSH サイエンスフェスティバル」(同時開催)

10月31日(土)には「まほろば・けいはんなSSHサイエンスフェスティバル」が開催されました。これは、奈良県立奈良高等学校が文部科学省のSSH事業の取り組みとして実施しているもので、今年で4年連続の開催になります。(公財)関西文化学術研究都市推進機構は、「科学のまちの子どもたち」プロジェクトの活動の一環として共催しています。

13時からの講演会では、京都大学霊長類研究所の濱田穰教授による『ヒトの進化—脳と寿命と家族と脂肪—』と題した体脂肪と人間の脳の巨大化についての興味深い講演があり、高校生からも、活発な質問が相次いでいました。引き続き、奈良県・京都府の12の高等学校・中高一貫校の生徒たちによる「ポスターセッション」がイベントホールで開催されました。講演会と合わせ、昨年的人数を上回る延べ600人が参加し、会場では、様々な分野の研究成果(39テーマ)について、生徒たちによる力のこもった説明と、会場を訪れた研究者や一般来場者との熱心な討議が繰り広げられました。



【講演会】京都大学霊長類研究所 濱田教授



【ポスターセッション】生徒たちのパネル発表風景



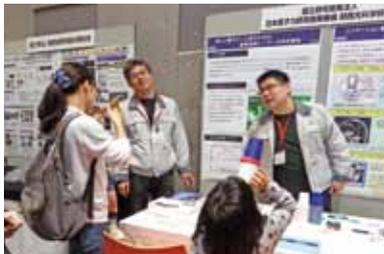
# グランフロント大阪で、 『“けいはんな”体感フェア2015 @ナレッジキャピタル』を開催!

公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構は、11月21日(土)～23日(月)、グランフロント大阪・北館ナレッジキャピタルThe Lab.2階アクティブスタジオにおいて、「けいはんな学研都市」の認知度向上を目的に、国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)ならびに公益社団法人関西経済連合会(関経連)の協力を得て実施された体感・体験型のイベント、『“けいはんな”体感フェア2015@ナレッジキャピタル』を一昨年、昨年に続き開催しました。

期間中、“けいはんな”の中核機関・立地大学から国立国会図書館関西館、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構、同志社大学、同志社女子大学、国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学が、けいはんなに立地するベンチャー企業から(株)構造機能科学研究所、(株)シン・コーポレーション、(株)タイムドメイン、(株)パリティ・イノベーションズ、(株)プロキダイが、さらに今回は、けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会からゴールデンダンス(株)、TOA(株)が、日替わりでそれぞれのユニークな技術や活動について、来場者参加型の楽しいデモなどを交えて分かりやすく紹介しました。

期間中、ファミリー層やカップルなどを中心に、約1,600名もの方に来場していただき、来場者からは「最先端の技術に触れることができよかった。」という声が聞かれるなど、けいはんなのPRとしては大変有意義なイベントとなりました。

また、同時開催イベントとして、北館ナレッジキャピタルThe Lab.3階において、関経連が中心となり、「けいはんな情報通信フェア2015@ナレッジキャピタル」が開催されました。ここでは、NICTが開発した「200インチ多視点裸眼立体映像」を使い、奈良・般若寺の白鳳秘仏 阿弥陀如来立像(重要文化財)や不動明王像の3D映像が初公開されました。



日本原子力研究開発機構



同志社女子大学



奈良先端科学技術大学院大学



構造機能科学研究所



シン・コーポレーション



プロキダイ



ゴールデンダンス



TOA



般若寺の不動明王像3D映像



京奈和自動車道 木津延伸バレード(平成12年4月16日)

## けいはんな学研都市の歩み(第2回)

けいはんな学研都市の30年以上にわたる歩みを、関係者の談話と年表・写真に基づいて、前回27号から3回連載で振り返ります。2回目は、1996年から始まるセカンド・ステージです。

(肩書などは当時)

### セカンド・ステージ

1996	H 8	2月	関西文化学術研究都市推進機構 理事長に西八條實氏	
		4月	関西文化学術研究都市セカンド・ステージ・プランを国土庁に答申	
		7月	セカンド・ステージ・プラン事業推進会議 発足	
		8月	国立国会図書館関西館の建築設計競技で陶器二三雄氏の作品が最優秀作品	
1997	H 9	4月	京都府立大学農学部附属農場 開所	
		12月		京都議定書採択
1998	H10	6月	NTT京阪奈ビル 竣工	
		6月	関西文化学術研究都市推進機構 理事長に立石義雄氏	
		9月	奈良生駒高速鉄道(株)が京阪奈新線事業の免許取得	
		11月	けいはんなプラザ・ブチコンサート(第1回)	
1999	H11	9月	日本原子力研究所関西研究所量子科学研究センター 開所	
2000	H12	4月	京奈和自動車道 供用開始(京都府域)	
		7月	郵政省通信総合研究所けいはんな情報通信融合研究センター 設置	
		10月	6大学連携市民公開講座(第1回)	
2001	H13	7月	きつぷ光科学館ふおとん 開所	
		9月		アメリカ同時多発テロ事件
2002	H14	4月	文部科学省の「知的クラスター創成事業」に選定	
		10月	国立国会図書館関西館 開館	
2003	H15	5月	オムロン京阪奈イノベーションセンタ 開所	
		10月	私のしごと館 開館(H22 3月末閉館)	
2004	H16	10月	関西文化学術研究都市「都市びらき10周年」記念式典	
2005	H17	3月	「関西文化学術研究都市の明日を考える懇談会」国土交通省に提言書	
		4月	けいはんな新産業創出・交流センター 開所	
		9月	けいはんなサイエンス・カフェ(第1回)	
		11月	関西文化学術研究都市と北京市中関村科技園区が交流協定締結	



第1回けいはんなプラザ・ブチコンサート(平成10年11月4日)



建設中の国立国会図書館関西館(平成12年12月)

## 開館まで20年・開館から14年 けいはんなの“知のセンター”に

～国立国会図書館 調査及び立法考査局長・元関西館長 石川武敏氏(59)～

国立国会図書館関西館(京都府精華町)は、開館から14年目に入りました。関西館構想の検討スタートは、国立国会図書館に有識者による関西プロジェクト調査会が設置された昭和57年にさかのぼります。5年間にわたる調査審議の結果、調査会は関西学研都市への設置が適当と答申。第1次、第2次基本構想の策定を経て建設基本計画原案が策定され、国立国会図書館建築委員会が平成6年12月、国会に対し建設について勧告を行ったのを受けて、事業化への道を踏み出しました。建築設計競技で陶器二三雄氏の作品が最優秀作品に決まり、着工から4年後の平成14年10月7日に開館しました。振り返ると、検討開始から開館までに実に20年の歳月がかかっています。

私は、関西館関連の業務に通算して約10年間携わりました。最初は平成7年から8年にかけて実施した建築設計競技です。内外から493作品の応募がありました。関西館準備室の主査として裏方の事務を担当し、最優秀作品決定の場に居合わせる事ができました。関西館の歴史の大きな一場面でした。その後の約4年間は、アジア情報室の開設準備作業を担当します。

開館3年目の17年に、初めて関西館に赴任。建物の夜景の美しさを改めて実感しました。アジア情報課長の2年間は、研究者のニーズを踏まえてインターネットによる情報提供を拡充しました。23年からの2年間は、2度目の勤務です。関西館次長を務めた後、10周年の節目の24年に館長に就任し、電子図書館をテーマとする国際シンポジウム、京都大学の山室信一教授や陶器氏を招いての連続講演会、関西圏の図書館の100年史に関する特別展示など多くのイベントを開催。大学連携市民公開講座の会場を、関西館でお引き受けして広い会場で開催できるようになったのも、よかったと思っています。立地機関の皆さんとの協力関係もできました。

関西館の業務の柱は、館内利用や遠隔利用などの図書館サービスと電子図書館事業、図書館協力事業です。東京本館と一体で機能を果たしていきますが、同時に、けいはんな学研都市全体の「知」のインフラとして、地域に貢献していきます。人と情報と地域を結び付ける。そんな“知のセンター”の役割を担うためにも、学研都市内の立地機関との連携が必要と考えています。



データベースフォーラムで冒頭挨拶  
(平成24年9月 関西館大会議室)

## セカンド・ステージ・プランを振り返って

～市浦ハウジング&プランニング 顧問 佐藤健正氏(71)～

私が学研都市の計画に本格的に関わったのは、平成元年～2年度に推進機構が実施したグランドプランの策定が最初です。中長期を展望した学研都市のトータルプランをとりまとめることを目的としたもので、学研都市全体の都市計画のあり方を考える貴重な機会であったと思います。しかし、学研都市の都市計画を公式に議論し、オーソライズする場や仕組みが無かったために、議論はあくまでもインフォーマルなもので、成果も推進機構の内部資料にとどめるという取り扱いになりました。

その後平成6年度から10年あまり、セカンドステージ・プランの策定とその実施のための事業推進調査に取り組みました。第2ステージの都市整備方策について、岡本道雄先生を委員長とする推進委員会と大久保昌一先生を委員長とする調査委員会で議論することになり、「文化」、「学術研究・新産業創出」、「都市づくり」の3つのワーキングチームが編成され、私は都市づくりと全体のとりまとめを担当しました。このセカンド・ステージ・プランは、奥田懇以来の学研都市に関する議論、都市建設の目的、理念、都市の将来像や計画の方針などの主要事項をすべてレビューして再構築するという、学研都市のこれまでの経過の中でも非常に重要なポイントであったと思います。主要なテーマは、文化中枢機能の整備方策、大学機能の強化と産学連携の推進方策、都市のインフラ整備とモデル都市の実現化方策などでした。このときの議論では、アカデミックな立場からのかくあるべしと言う主張と、提言を実践的行政課題として受けとめる官の立場からの主張が鋭く対立し、我々はその狭間で大変苦労したことを覚えています。

このとき「新産業創出」というテーマを掲げ、その実現方策について議論を深めたことは、その後の都市建設をすすめるうえで大きな成果であったと思います。一方で都市計画に関しては、都市全体としての計画を立案し、決定するしくみやそれを実施する体制、財源などの議論が不十分なままに終わりました。都市計画が学研都市の活動をしっかりと支えるために、次のステージでは是非この点に取り組んで頂きたいと考えています。



セカンド・ステージ・プラン推進委員会  
中央:岡本道雄氏、右横大久保昌一氏  
右下:セカンド・ステージ・プラン当時の佐藤健正氏

# Who's Who?

Number 11

◆ 奈良先端科学技術大学院大学 名誉教授  
大阪電気通信大学 名誉教授  
千原 國宏 氏



## Profile

1968年	大阪大学 基礎工学部 制御工学科 卒
1973年	大阪大学大学院 基礎工学研究科 博士課程修了 大阪大学 基礎工学部 制御工学科 助手
1983年	助教授
1992年	奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授
2002~07年	情報科学研究科長
2007~09年	理事・副学長
2011年	名誉教授 大阪電気通信大学大学院 医療福祉工学研究科 教授
2013年	医療福祉工学研究科長
2014年	大阪電気通信大学 名誉教授 工学博士、電子情報通信学会フェロー、日本バーチャルリアリティ学会フェロー、日本エムイー学会名誉会員 IEEE senior member

いつでもどこでも誰でも使える文化遺産アーカイブを

関西の文化遺産をインターネットで海外に発信し、観光集客やビジネスにつなげよう。関西経済連合会が主導する関西デジタルアーカイブ構想の試作サイト「WABISABI NARA」(わびさび 奈良)が開設され、奈良の古刹の国宝や重要文化財など約5,500枚の写真が公開中です。技術顧問を務めたのは、奈良先端科学技術大学院大学と大阪電気通信大学の名誉教授、千原國宏(ちはら・くにひろ=70)氏。今も探究を続けるテーマは「新しい可視化科学の開拓」です。

◆ 見えないもの、見えるようにする ◆

京都府舞鶴市の出身です。府立嵯峨野高校から大阪大学基礎工学部に入学し、制御工学を学びました。大学紛争で十分に実験はできませんでしたが、修士課程では磁気デバイスを研究しました。ただ、モノ作りよりはモノの仕組みを考える方に興味があったんです。

博士課程に進んで、指導教授の桜井良文先生に相談。川崎重工業の研究者を紹介してもらい、神戸商船大学にも手配いただきました。商船大の練習船「深江丸」で、今は関西国際空港になっている海域を何度も航行実験し、船舶の最適操舵系をテーマに学位論文をまとめました。

船も飛行機も車も、動かす熟練者の技は目には見えませんね。工学の本来の目的は、匠(たくみ)の技の大衆化だと、私は考えています。誰でもできるように、誰でも正しい情報が見えるように、可視化することが大切です。

助手になって3年目の心音の発生源を分析する研究から、メディカルの領域に関わります。当時、超音波のドプラ効果で心臓や血管の血流速度を測る方法が考案されていましたが、1回の計測で1箇所しか測定できません。断面上の全ての場所で、血流の速度分布を可視化する技術を開発しよう。助教授時代から挑戦を始めて、奈良先端科学技術大学院大学(以下 奈良先端大)で結実した「超音波3次元映像」につながります。ほぼ20年間の研究でした。

奈良先端大には1992年4月に着任。開設した像情報処理学講座の学生には「あらゆる情報の可視化が研究室のミッション」と話しました。バーチャルリアティ(VR)をベースの技術に、超音波診断などの医用画像や遺跡・遺物の復元、一般社会や家庭生活の場で、情報を可視化しようという考え方です。

皇太子ご夫妻が94年に実験室を視察された際は、動く心臓のカラー映像をゴーグル型のディスプレイでご覧いただきました。超音波で検出した心臓の断面像を、コンピューターグラフィクス(CG)で加工した立体映像です。

遠隔地間で超音波画像診断ができる情報環境の研究にも、95年頃から取り組みました。東南アジアと国内での学会の会場を通信衛星網で結び、現地の病院の胎児の画像をインターネットプロトコルの通信基準で送受信して、日本の医師が診断する公開実験を実施しました。

#### ◇「没入型」の仮想融合空間で臨場感◇

＜バーチャルな環境に入り込む仕組みを「没入型」と呼ぶ。千原氏は、旧通信・放送機構(TAO 情報通信研究機構の前身のひとつ)が98年から約5年間、奈良先端大と共同で実施した「没入型仮想融合空間の構築・提示技術に関する研究」でプロジェクトリーダーを務めた＞

正面、左右、床の計4面の大型スクリーンと、座席に座って揺れを体感する装置や音響スピーカーを用いました。構築した仮想空間は、仮想風土博物館、医療用3次元画像、共有インテリアデザイン空間、デジタル平城京です。仮想風土博物館では、奈良県十津川村の谷瀬の吊り橋を取り上げ、映像での臨場感に加えて吊り橋を渡っている揺れを再現。かなりのスリルでした。装置開発で日立製作所、通信回線でNTTの協力を得ました。

デジタル平城京は、TAOプロジェクトの終了後も研究を続けます。奈良先端大が10年の平城遷都1300年祭で研究成果を一般公開した際、研究室で開発した「平城京ウォークスルー」のデモを行いました。デモ参加者には、スクリーンに直面して足踏み動作をしてもらいます。両足の踵(かかと)に付けたマーカの動きをカメラで検出し、動きに連動して映像がスライドする仕組みです。広大な平城京を歩き回って散策している感覚を再現しました。

けいはんな学研都市との関連では、副学長の時の08年から3年間、関西の産官学が取り組んだ文部科学省の「ユビキタス生体計測デバイス・システム開発」プロジェクトで、研究統括を務めました。成果は、現在の「けいはんな学研都市ヘルステア事業」に引き継がれています。

奈良先端大では優秀なスタッフに恵まれて、多くの人材が育ちました。研究分野を通じて私が世に送り出した博士は50人、修士は220人を超えています。

#### ◇アーカイブの有効活用、事業展開を◇

＜関西デジタルアーカイブ構想は、関経連の研究会が提唱。試作サイト「WABISABI NARA」の構築では、千原氏の薫陶を受けた奈良先端大の現役研究者らが先輩をバックアップした＞

私は奈良先端大に赴任時から、附属図書館は蔵書をデジタルアーカイブ化した電子図書館にと提案。インターネットが日本でも普及し始めた時期で、当時は助教授だった山口英氏(現教授)や砂原秀樹氏(現慶応義塾大学大学院教授)から、「貯めておくだけのアーカイブではなく、使えるアーカイブにしましょう。情報のネットワーク化を」とのアイデアが出ました。今言うクラウドですね。

国立国会図書館関西館も電子図書館化をどう進めるかが検討されており、関西電力の秘書室課長の立場で学研都市と関わっておられた香川次朗氏(現副社長)と、電子図書館について話し合ったことがありました。定年を迎える頃、関経連の委員会で専門委員長をしていた香川副社長から「文化財アーカイブの仕組みを作りたい」と協力依頼があり、研究会が立ち上がった13年から技術面でアドバイスをしてきました。

仏像などの撮影は、慶応義塾大学のメディアセンター本部が行い、奈良先端大の藤川和利教授の研究室が試作サイトを製作。山口教授や砂原教授らがサイトの監修を担当してくれました。画像データは奈良先端大の総合情報基盤センターのサーバーに格納されていますので、セキュリティ面では万全で



般若寺の白鳳秘仏 阿弥陀如来立像(重要文化財)(提供カワワークス)

す。今後は京都などにも範囲を広げて掲載写真を増やしていきますが、研究会は2年半の活動を終了し、アーカイブの事業は15年5月設立のNPO法人が継承しました。私は法人の副理事長・顧問職に就いています。

事業化に向けた課題は、多々あります。まずは、文化遺産を保有しておられる寺社側に、どこまで画像の使用を認めていただけるか。そうした権利許諾の法的管理や課金の仕組みの考案などは、NPOでアシストします。いつでも、どこでも、誰でも使えるように、データベースの検索手段の国際的な標準化も行いたいと考えています。

観光客のインバウンドも重要ですが、イベントで活用して企業や団体のイメージアップを図ったり、ふすま絵などの障壁画を室内インテリアに使ったり。商用利用を離れて、小学生らが芸術文化を映像で学ぶ教育面の展開も考えられます。関西に集積する文化遺産のアーカイブを有効活用して、新しいビジネスモデルを開拓し、地域を活性化する事業が、なにかできないでしょうか。「やりましょう」と手を上げる企業が出てくることを期待しています。

#### ◇WABISABI NARA



関西の寺社仏閣の仏像や宝物などの文化財をデジタルアーカイブ化し、日本語と英語のメタデータ(関連情報)を付与して海外発信する事業の試作サイト。奈良市の海龍王寺と西大寺の写真約3,000枚が第1弾として14年4月に公開され、般若寺と大安寺の写真約2,500枚も15年11月に追加された。サイトの運営管理者は、奈良市のNPO法人カルチュラル・ヘリテージズ・ジャパン。

サイトのURLは<http://nara-heritage-online.naist.jp/>

Topics 1

# 関西文化学術研究都市建設推進に向けた要望活動

関西文化学術研究都市建設推進協議会(会長:森詳介関西経済連合会会長)では、政府の予算編成において、けいはんな学研都市の建設促進や産業振興を求め、毎年2回夏と冬に国に対して要望活動を行っています。

このたび、11月17日(火)に、関西経済連合会、京都府、大阪府、奈良県および関西文化学術研究都市推進機構が、関係各省庁を訪問のうえ要望書を提出しました。

要望書の提出に際して、推進協議会側から訪問した各省庁に対して、サード・ステージ・プラン最終年度を迎えたけいはんな学研都市の現況を、けいはんな学研都市に立地する各研究機関等の研究成果やけいはんなオープンイノベーションセンターの運営の状況を交えて説明したうえで、新たなステージに向けた都市運営の計画策定や、予算の重点的配分、学研都市をモデルとした府省横断的なイノベーションの推進等のほか、「第5期科学技術基本計画への本都市の位置付けの明確化」(内閣府)、「地方創生に資すると考えられる政府研究機関の本都市への移転の支援」(内閣官房、総務省、文部科学省、経済産業省)、「APECTEL54(第54回電気通信・情報作業部会)のけいはんな学研都市への誘致」(総務省)等の要望内容を説明しました。

また、「けいはんな学研都市が蓄積してきた30年の歴史は大きな意義がある」(内閣府)、「科学技術イノベーションを推進するうえでけいはんな学研都市を重要な地点と考えている」(文部科学省)といった認識を持っていただいている中で、各省庁との間で、けいはんな学研都市が地方創生の中で担うべき役割や今後のイノベーションの推進について活発な意見交換を行いました。



総務省との意見交換

### <今回の参加者>

- 関西経済連合会 野島産業部長
- 京 都 府 畑村政策企画部長
- 大 阪 府 清水事業推進課総括課長補佐
- 奈 良 県 小槻地域政策課課長
- 推 進 機 構 瀬渡常務理事

### <要望書提出先>

経済産業省、国土交通省、  
総務省、内閣官房、内閣府、文部科学省

## 関西文化学術研究都市建設推進に向けて

### <<重点要望事項 平成27年11月>>

- ① 本都市への学術・研究機関・企業集積実績を生かした我が国の競争力強化につながる施策の実施
- ② 都市基盤整備の促進
- ③ 新産業創出・産業集積につながるプロジェクトの推進
- ④ 学術・研究開発機能の整備・活用

## Topics 2

# 関西文化学術研究都市8大学連携「市民公開講座2015」

奈良学園大学が新たに加わり、8大学連携として国立国会図書館関西館大会議室にて開催

平成12年から毎年秋に開催している「市民公開講座」は、今年で16回目を迎えました。当初は、「けいはんな学研都市」に立地している6つの大学(奈良先端科学技術大学院大学、同志社大学、同志社女子大学、大阪電気通信大学、関西外国語大学、大阪国際大学)と(公財)関西文化学術研究都市推進機構との共同企画としてスタートしましたが、昨年より京都府立大学が、今年より奈良学園大学が新たに参加して、16回目の今年は8大学連携市民公開講座として開催されました。『けいはんなから「知の発信」』をキーワードに、市民の方々に興味のあるテーマや最新の研究事例を毎年、大学の先生から分かりやすく解説していただいています。

平成24年より、国立国会図書館関西館との連携が始まり、会場は関西館の大会議室とし、市民公開講座にふさわしい大会議室での開催は、毎回、聴講者の方から好評を得ています。今回は、関西館も関西館小展示関連講演として1講座を担当し、講座終了後には希望者が参加して小展示説明と小展示見学会が行われました。

今年は総数延626名(昨年は549名)の方に聴講していただきました。アンケート結果によれば、「けいはんな学研都市」を構成する8市町(京田辺市、木津川市、精華町、枚方市、四條畷市、交野市、奈良市、生駒市)以外の遠方(京都市、大阪市、豊中市、奈良県磯城郡・香芝市等)からも参加していただいています。また、聴講された方の約75%が以前に関西館に来館されたことがあり、国立国会図書館関西館が市民の方にとって身近な施設として定着しつつあることが感じられます。「来年も開催して欲しい」「さまざまな分野の講義を興味深く聞けた」等のご感想や、講座時間(1講座70分)に対する賛否のご意見もありました。事務局で出来るかぎり多くの方のご要望に沿うように検討を続け、開催を毎年楽しみに待ってくださる市民の方々のご期待にこたえられるよう、来年も充実した内容で開催できるよう努めていきます。

### ▶▶ 今年の講座内容(開講順)

- ① 「考古学から探る出雲神話の謎」(関西外国語大学 佐古 和枝 教授)
- ② 「米タンパク質の科学」(京都府立大学大学院 増村 威宏 教授)
- ③ 「あなたはボノボ? それともチンパンジー?」(京都大学霊長類研究所 古市 剛史 教授)  
(国立国会図書館関西館小展示関連講演)
- ④ 「ビッグ・データ・バイオロジー」(奈良先端科学技術大学院大学 金谷 重彦 教授)
- ⑤ 「しぐさでわかる人間関係」(大阪電気通信大学 小森 政嗣 教授)
- ⑥ 「多文化多宗教共生社会をめざすトルコ」(大阪国際大学 佐島 隆 教授)
- ⑦ 「グローバル社会の変化と地球環境問題」(同志社大学 アイスン ウヤル楨林 准教授)
- ⑧ 「糖尿病とともに生活すること」(同志社女子大学 光木 幸子 准教授)
- ⑨ 「ストレスの正体」(奈良学園大学 中川 晶 教授)



Topics 3

# 「グローバルコミュニケーションシンポジウム2015」開催 ～2020年に訪日外国人が日本語で困らない社会の実現に向けて～

10月22日(木)、グローバルコミュニケーション開発推進協議会(GCP協議会※<sup>1</sup>)はけいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会(けいはんなオープンラボ協議会※<sup>2</sup>)と国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)の共催及び総務省の後援により、大阪府立国際会議場にてシンポジウムを開催し、235名の参加をいただきました。

本シンポジウムは、GCP協議会が昨年12月の設立以来、地方で開催する初めてのシンポジウム。興水総務大臣政務官から新「VoiceTra(ボイストラ)」※<sup>3</sup>のお披露目と共に「関西からグローバルコミュニケーション計画を盛り上げましょう」と挨拶がなされました。続いて、富永大臣官房総括審議官から「グローバルコミュニケーション計画の推進」と題して最新動向の説明があり、NICT河井室長が「VoiceTraを支える音声翻訳技術」と題した講演とデモを行いました。その他、GCP協議会メンバーらによる利活用システムの開発事例や、実際の活用事例などが講演や展示で紹介されました。

特別企画として、落語家の桂三四郎氏が「VoiceTra for pick up」と題してわかりやすい説明が盛り込まれた創作落語を披露し、会場は一瞬関西らしい笑いの渦に包まれました。

共催者であるけいはんなオープンラボ協議会は、同協議会傘下のグローバルコミュニケーション準備WG※<sup>4</sup>の活動で得られた知見を踏まえ、今後の多言語音声翻訳技術の研究開発に対する期待について同WG主査の副枝氏(公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構)が講演しました。同協議会は関西における情報通信分野での貴重なオープンイノベーションのプラットフォームとして今後の普及促進に努めると同時に、さらに幅広く社会に受け入れられるために「機能・性能」「ユーザーインターフェース」「コストダウン」「商用サーバーの提供」などについてさらなる技術の研究開発に関する期待を述べました。

最後に、同協議会の岡村運営研究部会長(パナソニック(株))が閉会の挨拶で締めくくりました。

なお、展示会においては、NICTの多言語音声翻訳の要素技術を活用して開発されたシステムやアプリが紹介され、出展企業との研究開発連携やシステム導入などへの発展も期待できる有意義な機会となりました。

※<sup>1</sup> 総務省が提唱した、世界の「言葉の壁」をなくしグローバルで自由な交流を実現する「グローバルコミュニケーション計画」を実現すべく、けいはんなにあるNICTが開発した「多言語音声翻訳技術」を活用し社会実装していくために産官学の力を結集したオールジャパン体制の協議会。

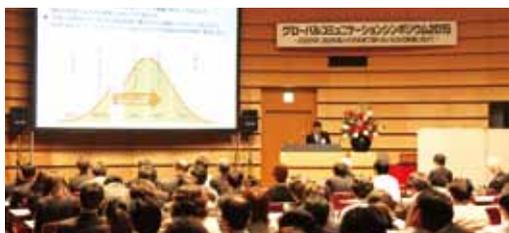
参照URL:[http://gcp.nict.go.jp/event/event\\_20151022.html](http://gcp.nict.go.jp/event/event_20151022.html)

※<sup>2</sup> 2003年にNICTが開発したオープンラボを有効に活用し、ICTの研究を推進するため、関西の産学官が一体となって設立した協議会。理事長は松下パナソニック(株)副会長。参照URL: <http://www.khn-openlab.jp/>

※<sup>3</sup> NICT開発の多言語音声翻訳アプリで、公開実験中の現アプリVoiceTra4Uからさらに翻訳精度を向上、固有名詞や固有の表現を充実、インターフェースと画面をリニューアルしたもの。

参照URL:<http://www.nict.go.jp/press/2015/10/22-1.html>

※<sup>4</sup> 参照URL:<http://www.khn-openlab.jp/gcom/>



大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪)でのシンポジウム



GCP協議会主催、けいはんなオープンラボ協議会・NICT共催



GCP協議会須藤会長



総務省興水政務官



総務省富永総括審議官



NICT河井室長



オープンラボ協議会副枝主査

## Topics 4

### 新規立地企業紹介

### 朝日印刷株式会社 京都クリエイティブパーク

**企業プロフィール** 創業：1872年(明治5年) 設立：1946年(昭和21年)  
年商：292億円 社員数：914名(H27年3月) 代表者：濱 尚

**新社屋概要** 施設名:朝日印刷株式会社 京都クリエイティブパーク  
敷地面積：47,300㎡ 延床面積：9,935㎡ 従業員数：40名  
操業開始：2015年10月



**けいはんな立地の目的と抱負** 弊社は、医薬品及び化粧品向けの印刷包装資材の製造・販売を中心に、包装システムの企画・販売も行う印刷包材のトップメーカーとして事業を展開しております。この度10月に完成した『京都クリエイティブパーク』は、事業のリスク分散も踏まえた関西初の製造拠点として完成いたしました。この施設では、医療用医薬品市場の印刷紙器包材製造を中心に、新しいモノ作りの創生研究及び、最先端の設備機器導入による業界初の高生産性パッケージ製造法を開発実現する、弊社のパイロットプラントとして稼働いたしました。(パーク長 松任和也)

**立地場所** 〒619-0216 京都府木津川市州見台6丁目3番1



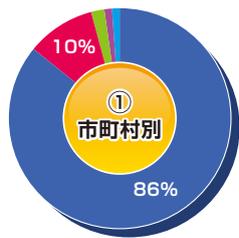
## Topics 5

### 「幸齢社会」の実現を目指し、第4回「健康キャラバン」を実施

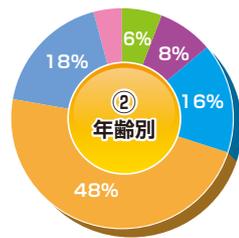
(公財)関西文化学術研究都市推進機構は、9月6日(日)、ガーデンモール木津川において、国立大学法人奈良女子大学及び木津川市役所、相楽薬剤師会とともに、気軽に参加できる簡易な検査装置による健康度測定イベント「健康キャラバン」を実施しました。今回は、NPO法人ジャパンメディカルケアアソシエーションの協力を得て血液観察セルフチェックを初めて導入。また第3回に引き続き相楽薬剤師会の協力によるヘモグロビンA1c測定及び簡易認知症テストも実施しました。

当日は105名の参加を得、このうち52名(50%)はリピーター。60代以上が参加者の70%を占めました。ヘモグロビンA1c測定は準備した70人分、血液観察セルフチェックは同40人分を早々に終えるほどの人気で、合わせて木津川市が6月から9月まで実施する特定健診の受診勧奨も行われました。

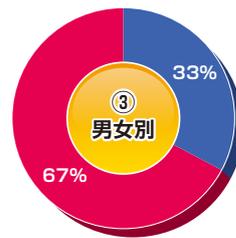
これまでの4回の健康キャラバンの延べ参加者は444人でした。終了後のアンケート結果では、キャラバンをきっかけに79%の方が食生活・運動・各種検診受診などの行動変容を実施し、20%の方が新たに特定検診を受診するようになるなど、健康キャラバンの有効性を明らかにしました。



前回比、木津川市民が3ポイント増加した。



前回比、60代が4ポイント、80代が2ポイント増加した。



前回比、女性が1ポイント増加した。



前回とほぼ同傾向であった。



Topics 6

# 第14回「けいはんなヘルスケア・イノベーション研究会」 第5回「人材育成フォーラム」を合同で開催

“高齢社会を健康に生きるには!”をテーマに、  
石井好二郎氏(同志社大学教授・博士)と  
村上路一氏(奈良女子大学コーディネータ)が研究成果を講演

けいはんなヘルスケア  
事業関連イベント

最新情報では、2013年の日本人の健康寿命は、男性が71.11歳、女性が75.56歳で、男女とも健康寿命は世界1位。この年の日本人の平均寿命は、男性が初めて80歳を超え女性は86歳台でありました。これらは好ましいことではありますが、平均寿命と健康寿命の差は日常生活に支障がある年月を意味し、医療費や介護給付費の増大に繋がることから、この期間をいかに短縮するかが重要視されています。これらの背景の下、健康寿命延伸に向けて取り組む両氏の研究成果を、平成27年9月3日(木)にけいはんなプラザで講演いただきました。会場には、健康意識の高い地域住民及び木村要精華町長をはじめ地域の健康施策や地域住民のQoL向上に取り組む自治体関係者も多く参加され、データに基づく説得性の高い講演に参加者約70名が熱心に聞き入り、活発な質疑も行われました。

## 1 「健康寿命と健幸遐齡(けんこうかゐい)」

注記)「健幸」とは“健やかで幸せあれ”の意味、  
「遐齡」とは“長寿”と同じ意味の言葉



石井好二郎 教授・博士  
同志社大学 スポーツ健康科学部

2012年に英国の医学雑誌Lancetに“世界の全死亡数の9.4%は身体活動不足が原因”という衝撃的な研究が報告されました。我が国においても身体活動量の低下による相対な過栄養が肥満の主たる原因であり、身体活動量の低下は筋肉量・骨量の減少にも強く影響を及ぼしています。これらを裏付けるいくつかのデータとその分析結果を紹介します。“肥満者は座っている時間が長く、立位や歩行時間が短い”“歩行数の多い大都市圏では肥満率が低い”“運動の不実施は時間経過とともに生存確率が加速的に低下する”“よく歩く人は糖尿病になりにくい”“要支援・要介護の原因の1位が「運動器の障害」”“小学校のころからの運動習慣が骨量・骨密度に影響する”“太腿が細い中高年は死亡や心血管疾患のリスクが高い”“速く歩く人ほど長生き”“中年期に内臓肥満だと将来認知症になる確率が高い”“毎日ウォーキングする高齢者は認知症になる確率は低い”“肥満が認知症になりやすい”など。

## 2 「“健康キャラバン”と地域実装活動」



村上路一 コーディネータ  
奈良女子大学 社会連携センター

奈良女子大は文部科学省イノベーションシステム整備事業で、少子高齢社会にあって多くの地方自治体が医療費負担に苦しみ一般会計から補填する実態に着目し、この課題解決のソリューション事業を目指しビジネスモデルの開発と、そのための人材育成を試行しました。厚生労働省の調査では、特定健診受診率が高いと一人当たりの医療費は安くなる傾向が出ていますが、地元奈良県の受診率は24%であり、もっとも一人当たりの医療費が少ない長野県の40%には及びません。各種データの分析や考察の結果、葛城市や木津川市等の自治体と連携し、体成分計・貧血計・ストレス計等の非侵襲生体計測装置を地域の公民館等に持ち込む「健康キャラバン」を実施し、これまでの3年間で約6,000名の測定を行ってきました。この取組で貧血の方を発見、受診勧奨し感謝されたことや、健診に行くことがなかった人の健康意識が芽生えたりする等、啓発に極めて有効かつ効率的である確証を得るとともに、活動を通して地域実装につながる人材の育成にも役立ちました。

## Topics 7

## 韓国における医療クラスタ視察

(公財)関西文化学術研究都市推進機構は、8月26日～27日にかけて、「北陸地域イノベーション」、「知と医療機器創成宮城県エリア」と共催で韓国の原州(ウォンジュ)医療機器テクノバレーと大邱(テグ)慶北先端医療複合団地を視察しました。

韓国は医療・バイオ産業を成長産業と捉え、最も力を注いでいくべき重要な産業の1つとして位置づけ、国と地方自治体が一体となった都市づくりを進めています。現在、6箇所の地域をバイオメディカル・クラスターとして選定。これらが相互連携することでバイオメディカル分野における国力の向上を図っています。

視察した2地域のいずれも①優秀な専門人材の養成②差別化された医療・バイオ産業へのグローバルな進出拠点化③優れた臨床インフラの活用④産学官の連携強化⑤技術の優位性、医療産業の差別化の育成⑥市場の拡大を目的に10年レンジの時間をかけてプロジェクトを推進しています。

視察の印象として、韓国はトップダウンで国が地域を指定し、地方自治体が強力なタグマッチを組んで、広大な土地にバイオ関連研究機関・大学、企業を誘致して、新産業を育成。病院や住まい(団地)も建設して人が安心して住まう、まさにヘルスケア都市づくりを進めていることに衝撃を受けました。我々も学ぶべき点も多く、大変参考になりました。



原州・医療機器テクノバレーの風景

## Topics 8

イノベーション主導型の発展国際シンポジウム(北京市)で講演  
けいはんな学研都市の産学連携活動をPR

2015年11月5日(木)6日(金)、北京市科学技術研究院 北京市科学学術研究センター主催による「イノベーション主導型の発展国際シンポジウム」が、中国北京市において開催されました。本シンポジウムは、「新常态(New Normal)」に移行しつつある中国において、その新動力としてイノベーション主導の発展戦略を実施し、経済のリストラクチャリングを加速させ、グローバルなイノベーション交流と協力を促進させることを目的として実施されました。

今回、本シンポジウムに、日本から元内閣府特命担当大臣で現在日中科学技術協力会議代表理事の中馬弘毅氏、文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術動向研究センター上席研究官の横尾淑子氏などに加え、(公財)関西文化学術研究都市推進機構から寺崎肇プロジェクトディレクターが招かれ講演を行いました。寺崎プロジェクトディレクターは、『けいはんな学研都市におけるヘルスケアに関する産学連携の取組』と題して、建設開始以来イノベーション主導型発展を目指してきたけいはんな学研都市の紹介と、現在推進しているけいはんな学研都市ヘルスケア事業の概要について講演しました。

当日は、ドイツのフランフォーファー協会や、中国内外から関連分野の専門家も含め、100名あまりの産学連携に関する関係者が出席し、熱心に耳を傾けると共に、パネルディスカッション等でイノベーション主導の発展戦略、およびグローバルなイノベーションの協力について、議論・意見交換を行いました。



パネルディスカッションの様子



光興業 株式会社

HIKARI FILTER 代表取締役 三宅 智加 氏

〒610-0312 京都府京田辺市飯岡小山104  
 TEL:0774-62-2960(代) FAX:0774-63-4181  
 URL: <http://www.hikaric.com> E-mail: [ad@hikaric.com](mailto:ad@hikaric.com)

interview

創業者である先代の意志を引き継ぎものづくりに取り組む、光興業株式会社の三宅代表取締役にお話を伺いました。本社を構える飯岡(いのおか)の里は、けいはんな学研都市の北東端。木津川の左岸に位置する高級手摘み玉露の産地として知られ、文化庁が認定する日本遺産にも登録されています。工場のすぐ隣には茶畑が広がる自然豊かな環境でした。

ICT(情報通信技術)の利活用が急速に進むにつれ、職場ではVDT症候群(VDT:Visual Display Terminals)を使った長時間の作業により眼や心身にあらわれる一連の身体症状)に総称される症状が問題視されるようになってきました。また、教育現場でも文部科学省がICTを活用した教育に力を入れている一方で、子どもたちの眼の疲労への影響を考慮したガイドブックを作成するなど、ICT化とユーザーの健康を守る取り組みは同時進行で進めていくことが求められています。光興業株式会社では、主に職場環境と教育現場でのユーザーの眼を守るためのフィルターを創業以来一貫して製造販売されています。

◆大阪万博の前年に創業

弊社は、父が生まれ育ったこの地で、昭和44年(1969年)に創業しました。当時は大阪万博の前年の年で、テレビの急速な普及とともに子どもの視力低下が問題視され始めた時代です。父は、どのようにして子どもたちの眼を守っていくかを念頭に、TVモニター画面のフィルターを中心に、開発・製造し販売を始めました。また、自分がそれぞれに職業を持つ娘二人の親だったこともあり、働く女性、特に母体を守るという観点でOAエプロンの販売にも着手しました。

◆高機能フィルターへのニーズの高まり

時代は進んで、パソコンの普及・開発・進化に伴ってICT化が急速に進んできました。職場での長時間にわたるVDT作業が、眼精疲労やドライアイなどの眼の疲れ、ひいては作業者の健康障害や効率悪化を招く事態が増えてきています。厚生労働省が「VDT作業における労働衛生管理のためのガイドライン」を制定したのは平成14年4月のことですが、弊社はそれ以前から、VDT作業者の職場環境改善のための種々のディスプレイフィルターを開発・製造・販売してきました。

また昨今では、パソコンやスマホ、タブレットなどのLEDモニターから多く発せられるブルーライトによる健康障害が取りざたされています。ブルーライトとは、波長が380~500nm(ナノメートル)の青色の可視光線で、波長が短く強いエネルギーを持っていて、網膜まで到達します。サーカディアンリズム(生体リズム)にも悪影響を及ぼすと言われています。

教育のICT化が進められる中、文部科学省は子どもたちの健康面への影響について調査し、ガイドブック\*1を作成しました。その中では、ブルーライトの削減だけでなく電子黒板やタブレット画面への映り込みや光の反射防止など、学習環境の改善が求められています。

また、マイナンバー制度が今年10月からスタートしたことにより、従前以上に厳重な個人情報の管理が求められるようになります。プライベートな情報を取り扱う職場では、弊社の覗き見防止の機能をもつフィルターに関心が高まっています。

#### ◆大量生産ではなく、きめ細やかな対応を

弊社製品は官公庁や学校関係などに採用していただくことが多いのですが、主要な機器のサイズに合わせた標準タイプの製品以外に、お客様の利用されている機器に応じたカスタムメイドの対応もしています。高機能フィルターを、多品種で取り揃え、多様なサイズで提供できることが弊社の強みです。

約200台のリプレースPCにフィルターを採用していただいた事例でアンケートを行った結果、90%の方に効果を実感していただきました。一方で、CADのオペレーターの方や、システムエンジニアなど、一日中パソコンに向かい合っておられる方からは、相変わらずVDT症候群に悩まされているという声を聞いています。

弊社はフィルター製造・販売を通じて安心・安全・快適な職場環境・教育環境づくりに邁進してきました。お客様のお言葉から、老舗メーカーでありフィルター筋のメーカーであることに誇りと責任感を感じています。これからも、創業者の思いを引き継いで「高性能で眼にやさしく健康を守るフィルター」を提供していきたいと思っています。

※1 文部科学省は2014年6月、授業でICT機器を使う際の生徒の健康への配慮について改善方策などまとめた「児童生徒の健康に留意してICTを活用するためのガイドブック」を発表し、具体的な改善項目としてフィルターの使用を提言している。

#### 〈TAGWシリーズ TARWシリーズ〉



タッチパネル用など、画面に直接貼り付ける薄型フィルターは、特許出願中のオリジナル粘着テープで簡単に取り付け出来る。

ブルーライトカット、映り込み防止、紫外線カット、帯電防止機能などの機能を持つ。

覗き見防止フィルターもタッチパネル対応  
〈Looknon-N8〉

#### 〈SUPER DESK 8シリーズ〉



金属フレーム付きのハイグレードタイプは、特許取得済みのバンドストッパーで取り付けれる。

ブルーライト50%以上カット、紫外線は100%カットする高機能商品。

光興業(株)の製品は、直営サイトほか楽天市場などで購入が可能です。

**直営サイト**

<http://hikari-direct.co.jp/index.html>

# 交野伝統 の文化



交野山地の一角を占める「交野山」に登ると、交野台地に広がる交野市域を一望できます。かつてはのどかな田園都市として知られていましたが、昭和40年ごろから住宅都市化が進んできました。近年、第二京阪道路の開通により交通の便がさらに良くなったことにより、町並みはさらに変わりつつあります。今回はこの交野の祭り  
と名産を紹介します。

交野山より交野市を望む

## I 天野川が育んだ祭りと伝統

交野台地を南北に流れ淀川に注ぐ「天野川」は、夏の夜空を飾る「天の川」になぞらえ、平安時代の和歌に詠まれました。その流域に七夕や星に関わる伝承や地名が多く残されていることにちなみ、七夕の祭りが多く行われるようになりました。



七夕の機物神社

倉治の機物神社では、七夕伝説の織姫と同一視される天棚機比売大神と栲機千々比売命大神などの機織の神様が祭られています。宮中では、江戸時代の7月7日に、「乞巧奠」とみられる祭礼が行われていました。織姫にあやかり裁縫や機織の上達を祈る行事で、五節句の一つとして庶民の間でも江戸時代に流行したものです。機物神社では一度途絶えていましたが、昭和54年(1979)に七夕祭として復興され、多くの観光客も集める行事となっています。

また、交野の星田では、空から星が降ってきたという伝承が伝わっています。星田の小松神社(星田妙見



七夕の星田妙見宮

宮)は、この星降りの伝説地のひとつで、空より落ちてきた星と伝えられる巨石をご神体としています。この石は江戸時代から「織女石」とも呼ばれてきました。こうした伝承にちなみ、7月7日に七夕の祭、星田に星が降ったとされる7月23日に降星の祭りが行われます。このほかに、市民による七夕祭りも多く開催され、天野川が幻想的にライトアップされます。七夕は市民の活力あふれる交野を象徴する行事となっています。



七夕で盛り上がる機物神社境内

また、天野川の流域では、良く似た伝統文化が残ります。前号で紹介されていた四條畷市田原は、天野川上流域にあたります。ここで紹介されていた「砂絵」は、交野市域でも伝統的に行われます。交野では「砂もち」とも呼ばれ、年末年始には砂で描

かれた丸や棧の模様が庭先や神社を飾り、家庭円満や作物の豊穰を祈ります。このほかにも天野川流域では良く似た風習や信仰があることが知られています。伝説の天の川は織姫と彦星を隔てるものですが、交野を流れる天野川は周辺の地域を結び、交野の伝統文化を育んできました。



お正月の砂絵

## II 交野の名産

豊かな自然に囲まれた交野では歴史上さまざまな生産が行われてきました。古墳時代には最新技術であった鉄鍛冶や、「須恵器」という外来の焼き物がいち早く伝わった地域の一つです。奈良時代には「三彩」という美しい焼き物をつくるため、交野郡から土が採取されていることも『正倉院文書』から知られます。燃料となる樹木が豊かな山地や、天野川から淀川へと通じる水運を利用できる環境が古代の生産に適していたようです。中世には牧や荘園も置かれました。禅宗により喫茶文化が広まった室町時代には茶葉も生産され、私部の光通寺から朝廷へ献上されていました。

江戸時代には、河内木綿の生産地としても知られていました。河内木綿は丈夫で物持ちがよいこと



交野市に残る河内木綿製品

で評判でしたが、安価な製品の輸入が明治時代に始まり、次第に姿を消しました。また私部、寺や星田などに瓦の産地がありました。小田原城主の大久保家の領地が交野にあったことから、小田原城に私部の瓦工人の名が刻印された瓦が葺かれています。この頃には酒造も始まっており、現代に引き継がれたものもあります。

明治大正時代には桃をはじめとした果樹栽培や養蚕業が盛んでした。養蚕業から発展した原田織機は、『原田式力織機』を発明し、当時の綿織物業で豊田織機(トヨタグループの前身)に並ぶ会社と



原田式動力織機(模型)

なりました。現在は廃業されていますが、近現代の荒波の中で一時代を築いた会社として交野の歴史に名を刻んでいます。

現在の交野では、こうした歴史を引き継ぎつつ、新しい試みを行いながら名産が作られています。神宮寺のぶどう農園は、桃栽培が不調になった昭和20年頃に始まり、現在では大阪を代表するぶどう産地のひとつとなっています。夏のぶどう園の風景は風物詩となっており、最近では、ぶどうピネガーやシロップの生産など新しい試みも始まっています。また、いちごや芋のほか、「交野米」とも呼ばれるお米なども生産されています。

また、大阪では珍しく、江戸時代から2つの酒造が続いている市でもあります。私部の山野酒造では生駒山系の伏流水と地元の酒米を活かした酒をつくっています。森の大門酒造は「酒屋半左衛門」の屋号をもち、文政9年(1826)から続いています。

交野の豊かな歴史や環境に惹かれた交野へと移転してこられる生産者もおられます。吉向松月窯は江戸時代より続き、大阪を代表する窯元です。焼き物の産地として知られた交野の環境に惹かれ、昭和になって交野の私市へと移転されました。現在では、天野川の七夕伝説に触発された作品も製作されています。

このように、交野の歴史伝統も引き継ぎながら、時代の変化のなかで生きる人々の試行錯誤によって交野の名産が育まれています。



大門酒造

Topics 9

# 「けいはんなから世界へ」 大幸薬品京都工場・研究開発センター 竣工



8月26日、京都府精華町に建設された「大幸薬品京都工場・研究開発センター」（以下センター）の竣工式が行われました。式典には、大幸薬品株式会社柴田仁会長、柴田高社長、山下晃正京都府副知事、木村要京都府精華町町長をはじめ約100名が参加し、大幸薬品の新たな門出を祝いました。



大幸薬品は1946年に大阪府吹田市で創業し、以来、吹田を拠点に胃腸薬「正露丸」等の医薬品製造を行ってきました。主力製品の「正露丸」、「セイロガン糖衣A」に加え、2005年からは除菌・消臭製品「クレベリン」の製造販売を行っています。

けいはんな学研都市に竣工したセンターは3つの機能を備えています。1つ目は、医薬品の製造ラインで、国内流通分のみならず世界各国で販売している分も含めた「正露丸」「セイロガン糖衣A」の製造を行います。海外でも評価の高いメイドインジャパンの医薬品の中でも「正露丸」は中国をはじめとする海外市場で需要が高まっており、それに応えることのできる製造設備を整えました。センターでの「正露丸」「セイロガン糖衣A」の製造については、現在は輸出先である各国の審査を行っている段階であり、製造開始はまだしばらく先となります。



2つ目は、除菌・消臭製品「クレベリン」の製造ラインです。身の回りのウイルスや菌を除去する製品「クレベリン」は秋冬に需要が高まる製品です。急な増産にも応えることのできる生産ラインと体制が整い、更なる事業拡大を狙います。



3つ目は、大幸薬品の心臓部ともいえる研究開発部門の拠点です。製造現場と研究開発の場が近いことは研究者・開発者のアイデアが製品作りの刺激となりうる環境であり、相乗効果が期待できます。センターでは、クレベリンの主成分二酸化塩素についての有効性や安全性についての研究、医薬品や二酸化塩素製品についての新製品開発を行います。

「クレベリン」は清潔志向の高い日本人が作ったメイドインジャパンの除菌剤として海外市場からも注目が集まっており、海外市場に向けた研究やその成果に基づいた新製品が同センターより生まれることを期待しています。センターでの研究成果とそこから生まれる新製品を、けいはんな学研都市発のイノベーションとして喜びを皆様とわかちあえる日が来ることを夢見て、スタッフ一同業務に励んで参ります。



**大幸薬品株式会社 京都工場・研究開発センター** 京都府相楽郡精華町光台1-2-1 (けいはんな学研都市)  
TEL:0774-98-2710(代表)、敷地面積 約21000平方メートル、建築面積 約9000平方メートル  
生産品目 医薬品(正露丸、セイロガン糖衣A) 感染管理製品(クレベリンシリーズ)

## Topics 10

## けいはんなスマートラボ倶楽部 発足!!

～けいはんな地域のスマートビル化を目指して～

- 京都府と(公財)関西文化学術研究都市推進機構では、けいはんなに立地する研究機関・企業や関係団体27団体とともに、地域のビルのスマート化を推進する組織「けいはんなスマートラボ倶楽部」を設立し、9月30日、けいはんなプラザで設立会合を開催しました。
- 「けいはんなスマートラボ倶楽部」は、参画メンバーが学習会や意見交換・情報交換などの活動を通じて、「次世代エネルギー・社会システム実証プロジェクト(注1)」の成果を活用しながら、BEMS(ビル・エネルギー・マネジメントシステム、注2)及びFEMS(ファクトリー・エネルギー・マネジメントシステム、注2)をはじめ創・省・蓄エネ機器等を有効利用することにより、けいはんな地域全体でのスマートビル化の推進を目指しています。

(注1) 経済産業省の「次世代エネルギー・社会システム実証プロジェクト」(2010～14年度の5ケ年)として「けいはんな学研都市」が地域選定され、産学公住の連携の下、次世代エネルギー社会の構築を目指して取り組まれたもの。

(注2) BEMS(FEMS)とは、ビル(工場)のエネルギー関係機器・設備等をICTで制御し、最適な運転管理によってエネルギー消費量の削減を図るシステム。

## けいはんなスマートラボ倶楽部について

## ■ 倶楽部の構成メンバー

## 【立地機関・企業】

カゴヤ・ジャパン(株)、香椎化学工業(株)、環境衛生薬品(株)、(学)関西外国語大学 学研都市キャンパス、(公財)京都産業21、京都府農林水産技術センター、(株)けいはんな、けいはんな記念公園、(公財)国際高等研究所、(株)国際電気通信基礎技術研究所、国立国会図書館関西館、(国研)情報通信研究機構、双和化成(株)、(公財)奈良先端科学技術大学院大学支援財団、(国研)日本原子力研究開発機構 原子力科学研究部門 関西光科学研究所、日立造船(株)けいはんな事業所、(株)福寿園 CHA遊学パーク、村本建設(株)

## 【協力機関】

(一社)京都産業エコ・エネルギー推進機構、(一社)京都スマートエネルギーイニシアチブ

## 【アドバイザー】

(株)大塚商会、シスコシステムズ(同)、東洋エンジニア(株)、日新電機(株)、富士電機(株)

## 【事務局】

京都府、(公財)関西文化学術研究都市推進機構

## ■ 活動内容

- けいはんなBEMS勉強会・視察
- 事例発表・事例研究
- 国・府等の導入支援に関する補助制度の情報提供
- けいはんなプラザ宿泊によるBEMSの体感
- 先進スマートビル視察
- 省エネアドバイザー派遣

## ■ 活動実績(2015年度)

- 9月30日 けいはんなスマートラボ倶楽部設立会合および「けいはんなプラザ」BEMS施設見学会
- 11月24日 先進事例見学会(大阪ガスNEXT 21, hugミュージアム)

※今後、スマート化された先進建物の導入事例やBEMSやFEMSシステムの勉強会、けいはんなプラザホテルの「エコルーム」宿泊体験等を企画予定。



設立会合



「けいはんなプラザ」BEMS施設の見学会

## 参加者募集

※本倶楽部への参加にあたっては、会費等の負担は一切ありません。  
今後も新たに倶楽部への参加希望がありましたら、随時受付しております。

## お問い合わせ

(公財)関西文化学術研究都市推進機構 スマートラボ倶楽部担当  
TEL:0774-98-2235 FAX:0774-98-2202

Topics 11

# けいはんなオープンイノベーションセンター推進協議会 第1回総会を開催

—学研都市発イノベーション創出の中核拠点に—



けいはんな  
オープンイノベーションセンター



けいはんなを中心としたイノベーション創出の中核拠点としての役割が期待されている「けいはんなオープンイノベーションセンター」(略称; KICK)。

そのKICKを活用したイノベーション創出や産学公連携、施設の機能強化の方向性について、大学、企業、研究機関、公共団体などの関係者が協議を行う「けいはんなオープンイノベーションセンター推進協議会」(会長; 柏原康夫(公財)関西文化学術研究都市推進機構理事長、32団体)の第1回総会が8月25日、京都市内で開催されました。

総会では、KICKに入居及び入居予定の3つのプロジェクトや産学連携によってKICKでの事業展開を目指す大学・企業共同研究チーム「KICK・大学発プロジェクトチャレンジチーム」(15チーム)の取組み状況が報告された後、KICKの今後のあり方などについて意見交換が行われました。出席者からは、「学研都市での基礎研究が充実するような取り組みを」、「真の中核施設として発展するために着実な成果を」、「学研都市の強みを生かして、関西発のイノベーション推進を」といった期待が寄せられました。

また、その後「KICK・大学発プロジェクトチャレンジチーム」の研究事例発表会が開催され、3チームの代表からそれぞれ具体的な研究内容が披露されました。

Topics 12

# 「スマートシティ・グローバルネットワーク」を設立

—ICTの活用による官民連携・協働プラットフォーム—

京都府では、誰もがいきいきと幸せに暮らすことができるスマートシティづくりを進めるため、情報通信技術(ICT)等の最新技術と課題解決のノウハウを有する国内外の企業と多様な社会的課題を共有する自治体が相互に連携・協働するためのプラットフォーム(ゆるやかなネットワーク)として、「スマートシティ・グローバルネットワーク」を設立しました。

9月15日(火)、けいはんな学研都市におけるイノベーション創出の拠点「けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)」で開催された設立総会には、国内外の企業・自治体・研究機関などおよそ70団体から100名が出席。

今後、ネットワーク活動を通じて、国際的な連携・協働関係を深め、環境・エネルギー、健康・医療、交通、水、防災・防犯、雇用などの様々な地域の課題に対して、企業は技術を、地方自治体は施策を高め合い、新たな社会システムとイノベーションを創出する中で、「賢く(スマートに)」解決し、それぞれの生活文化を活かした完成度の高いスマートシティ・モデルの構築を通じた地方創生と新しいビジネス創出を目指す取組みを進めていきます。

会費は無料で、参画団体を募集中。詳しくは、「スマートシティ・グローバルネットワーク」の専用ホームページ(<http://global-network.smartcity.kyoto/>)を御確認ください。



けいはんなプラザ イベントカレンダー

一般の皆様へ

1月

初笑 けいはんな茂山狂言

NHK連続テレビ小説「ごちそうさん」への出演などマルチに活躍中の茂山逸平さんをはじめとして、京都の狂言師一門「茂山千五郎家」がけいはんな学研都市を笑いの渦に巻き込みにやってきます。狂言は笑いをテーマにした伝統芸能だから誰にでも楽しめるのはモチロン、本公演は国際色が豊かな学研都市ならではの「英語字幕つき」ですので、日本の伝統文化に関心をお持ちの外国の方にもオススメ。2016年の笑い初めはけいはんなプラザの茂山狂言で!

**日時** 1月17日(日)  
午後2時開演(開場:午後1時30分)  
**場所** けいはんなプラザ メインホール  
**出演** 茂山七五三、茂山宗彦、茂山逸平 ほか  
**演目** 鬼瓦、寝音曲、仏師



**料金** (全席自由)1,000円 ※未就学児入場不可  
**チケット取扱い** ①株式会社けいはんな 平日午前10時から午後5時まで  
②ケイ・ネット平和堂 京田辺店  
③ローソンチケット Lコード 56311

**問合せ** 株式会社けいはんな TEL 0774-95-5115 平日午前10時から午後5時まで  
**主催** けいはんな学研都市活性化促進協議会

けいはんな映画劇場「日本のいちばん長い日」

降伏か、本土決戦か——。その決断に、すべての希望は託された。1945年8月15日、終戦。その前夜、日本で何が起こったのか。戦後70年の時を経て、今、明かされる真実。



**日時** 1月22日(金) [10:30~12:46・13:30~15:46・18:30~20:46]、  
1月23日(土) [10:30~12:46・13:30~15:46・16:30~18:46]

**場所** けいはんなプラザ メインホール  
**出演** 役所広司、本木雅弘、松坂桃李、堤真一、山崎努 ほか  
**料金** ※当日券のみ 一般/1,000円 小・中学生、シニア(60歳以上)/700円 けいはんなプラザ友の会会員/700円  
**問合せ** (株)けいはんな 事業部 TEL 0774-95-5115

けいはんなプラザ・プチコンサート

**主催・問合せ** けいはんな学研都市活性化促進協議会、けいはんなプラザ・プチコンサート実行委員会  
TEL 0774-95-5105

●in 木津川 at アスピアやましろ

**日時** 1月19日(火) 14:50~15:30  
**場所** 木津川市山城町平尾前田24 山城総合文化センター(アスピアやましろ)  
**料金** 無料 **申込** 不要  
**演奏者** 中田 千恵(ソプラノ)、上村 智恵(ソプラノ)、  
徳田 雅子(ヴァイオリン)、鎌垣 有樹子(ピアノ)  
**曲目** 作曲者不詳/アメイジンググレイス、中田章/早春賦 他



中田 千恵 上村 智恵



徳田 雅子 鎌垣 有樹子

●in けいはんな記念公園

**日時** 1月30日(土) 13:30~14:10、14:40~15:20 (2ステージ、別の曲を演奏予定)  
**場所** 相楽郡精華町精華台6丁目1 けいはんな記念公園屋内  
(水景園観月楼)  
**料金** 無料 **申込** 不要 **駐車場** 有料(普通車1回400円)  
**演奏者** 橋本 桂子(箏)、宮田 晴奈(ヴァイオリン)、饗庭 圭輔(尺八)  
**曲目** 日本古謡/さくらさくら、宮城道雄/春の海 他



饗庭 圭輔



橋本 桂子



宮田 晴奈

2月

けいはんな映画劇場「あん」

やり残したことは、ありませんか? 「私達はこの世を見るために、聞くために、生まれてきた。…だとすれば、何かになれなくても、私達には生きる意味があるのよ。」



**日時** 2月5日(金) [10:30~12:23・13:45~15:38・18:30~20:23]、  
2月6日(土) [10:30~12:23・13:45~15:38・16:30~18:23]

**場所** けいはんなプラザ メインホール  
**出演** 樹木希林、永瀬正敏、内田伽羅、市原悦子 ほか  
**料金** ※当日券のみ 一般/1,000円 小・中学生、シニア(60歳以上)/700円 けいはんなプラザ友の会会員/700円  
**問合せ** (株)けいはんな 事業部 TEL 0774-95-5115

# Keihanna Science City アジアサイエンスパーク協会年次大会へ参加

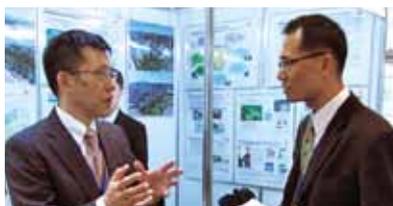
アジアサイエンスパーク協会(ASPA:<http://aspa.or.kr/>)の第19回年次大会が、平成27年11月8日(日)から4日間、神奈川県川崎市のかながわサイエンスパーク(KSP)で開催されました。海外からの参加申込が56団体、200名強の参加者のうち半数以上が外国人という、国の枠組みを超えてのネットワーク構築の機会となり、けいはんな学研都市も、ASPA会員として広くアジア地域のサイエンスパーク関係者にPRを行い、今後の連携に向けた人的交流を進めるために参加しました。



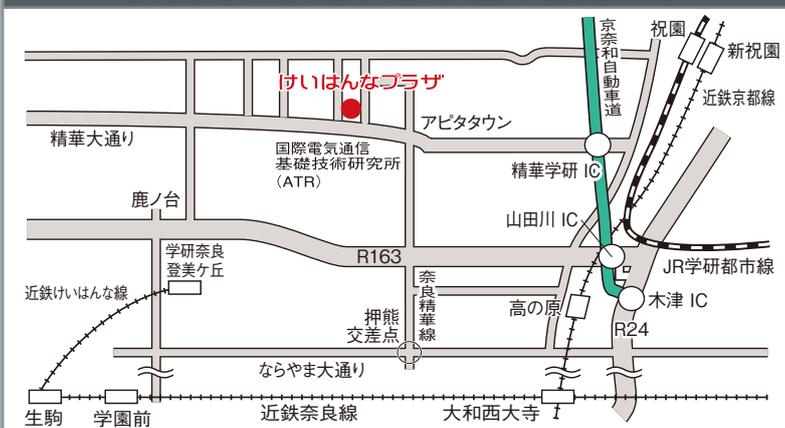
初日に行われたASPA理事会では、(公財)関西文化学術研究都市推進機構 瀬渡常務理事らが出席し、12のサイエンスパークからの参加者に対し、けいはんな学研都市について英語によるプレゼンテーションを行いました。また開催期間を通じてパネル展示ブースを設け、ビデオ上映やパンフレット配布によるPRを実施したほか、レセプション等でも多くの海外サイエンスパーク関係者と交流しました。

大会では、アジアのそれぞれのサイエンスパークが、国や地域の実情に応じた発展を目指す中、共通する課題や取組内容について互いに学び、情報共有が行われたほか、ASPAの取組をきっかけに個別連携協定を締結し、互いの企業のビジネスマッチングなどの成果に結び付けている事例も踏まえ、グローバルなネットワークの重要性が再認識されました。

第19回ASPA年次大会の詳細はこちら → HP: <http://aspa2015.jp/jp/>



## (公財) 関西文化学術研究都市推進機構



〒619-0237 けいはんな学研都市(精華町光台1丁目7) けいはんなプラザ・ラボ棟3階  
TEL: 0774-95-5105 FAX: 0774-95-5104

ホームページ: <http://kri-p.jp>  
Facebook、Twitterでもけいはんなの最新情報を配信中!

Facebook <https://www.facebook.com/keihannakri>  
Twitter <https://twitter.com/keihannabiz>



## 編集後記

P6でも取り上げているまほろば・けいはんなSSH フェスティバルでは、情報通信フェア会場のすぐ隣で中高生が大人を相手に堂々とプレゼンテーションを展開していました。互いの会場を行き来して交流し、大人たちも生徒たちも、大いに刺激を受け楽しんだ一日となったのでは。大人には思いつかないような質問をしたり、熱く説明する子どもたちの姿には頼もしさを感じました。

デジタルネイティブと呼ばれる世代が世に出始めてすでに20年以上が経過し、様々なデバイスを自然に使いこなす彼らですが、じかに触れ合った研究者との生身の交流から新しい科学のタネが生まれ、数年後の私たちの暮らしをより豊かなものにしてくれると信じています。

今年もけいはんなViewをお読みいただきありがとうございました。これからもけいはんな学研都市の魅力をドンドン伝えていきたいと思っております! 2016年もよろしくお願いたします。(直)